

# 令和5年度 施設関係者評価事業 報告書

2023年度 愛真幼稚園

## 令和5年度の課題

- ① 子どもたちが喜んで園生活を送る ② 遊びを中心とした充実した保育の展開 ③ 危機管理体制を整える

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果			コメント		
		基準	職員の目標	取組結果			
子ども達が喜んで園生活を送る	子ども達が安心して園生活を送るための環境づくり	4	聖書の学びを通して、キリスト教教育の理解を深める	4	感謝の気持ちを持てるようになる	4 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 私から毎日していた挨拶も次第に子ども達の方から「先生おはよう」と言ってくれるようになった。</li> <li>● 新入園児は初めての幼稚園で慣れない子も多い中、登園を重ねていくうちに子ども達の方が元気に挨拶をしてくれるようになったり、登園を楽しみにしてくれるようになった。</li> <li>● 保育者自身がキリスト教教育について学び理解を深めていくことが大切であると感じている。</li> <li>● お祈りを日々繰り返し行うことで、「神様にお願いしようね」などと子ども達同士で会話をしている姿が見られるようになった。神様に守られていることや神様のお働きに気付くようになってきていると感じる。</li> <li>● 年長児は皆4月から喜んで登園してくる。面白かった出来事や、好きなキャラクターの事等を思い思いに話す。「毎日友達と遊べている事や美味しいご飯を食べられている事は、神様が働き私たちを見守っているからだ」と話してからは、何かいい事があると「神様のおかげだね」という子どもが増えた。</li> <li>● 神様の働きは知識として知る以上に、感じるものであるが、その事を日々の生活の中で自然に伝えていくように意識していきたい。</li> </ul>
		3	聖話を読み聞かせる機会をつくる	3	神様の働きに気付く		
		2	日々の礼拝を大切に	2	神様に守られていることを知る		
		1	子どもたち一人ひとりの名前を呼んで挨拶をする	1	喜んで一人ひとりが登園してくる		
あそびを中心とし、充実した保育の展開	総幼研保育の実践が自信を持って	4	子どもの「個性」を見るのではなく、集団の力を引き出す	4	みんなと力を合わせて挑戦する	4 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 月の終わりになると讃美歌や季節の歌を覚えて自信を持って歌えるようになった。</li> <li>● 総幼研保育により、毎日の繰り返しや習慣化によって安心感を与えることができ、子ども達も私自身も無理なく園生活を送れるのを感じた。蓄め言葉がたくさん使え意識ができるのも総幼研保育の実践のおかげだと感じる。</li> <li>● 「プリントやたいい」「国旗カードやたいい」という声が沢山聞こえ、やってみたい、頑張りたいという気持ちが子ども自身から強く芽生えるように感じた。</li> <li>● 行事を通して、また、年長に向けておともだちと協力することの大切さと楽しさに気づいた。</li> <li>● 皆で声を出し、日課活動を繰り返し行うことでその意識を持ち楽しく参加ができるようになってきた。</li> <li>● 11月後半から「自分の名前カードでたら手を挙げて大きな声で名前を言う」という取り組みをしたが、みんな自信を持って名前を言うことができた。一人一人が自信を持つことができたから運動会やクリスマス祝会などの行事の成功につながったと思う。</li> <li>● 子ども達の底力、対応力に驚いている。行事に終わらず日々の保育の中で子ども達が進化向上してゆく姿に担任の先生との絆や信頼感も育まれていると感じている。それは、とてもなおさず日々繰り返し行なわれている礼拝日課の活動が保育の土台と大きな働きをしているのではないかと思う。</li> </ul>
		3	子どもたちを承認しながら、充実した時間を過ごす	3	できたことに喜びを感じ、自信を持つ		
		2	あそびであることを意識し、楽しむ	2	やってみようという気持ちを持ち、楽しみながら参加する		
		1	毎日同じ活動を継続的・反復的に行う	1	保育者と一緒に生活していく中で安心感を持つ		
いろいろな体験を通過させる	子ども達の遊びの中で、興味・関心に応じ、自由に選べる環境を準備する	4	子ども達の遊びの中で、興味・関心に応じ、自由に選べる環境を準備する	4	環境としておかれたものからイメージを広げ、自分たちでアイデアを広げて楽しむようになる	3 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● なるべく子ども達に選択肢を与えられるような環境を意識したが、まだ改良の余地が大いにあると感じる。</li> <li>● 3学期には制作やブロック遊びの時には「恐竜どんなかな?」「こんなだったらかわいい顔になるかな?」など、自分でイメージしてすることが増えた。行事ごとにゆり組さんと交流も沢山でき、イベントも子どもとワクワクするような遊びが沢山できたので、子どもたちも「やってみたい」「楽しい!」という気持ちを引き出すことができたと思う。</li> <li>● 自分の得意な遊びを見つけ集中して遊ぶ姿や、友達と役割分担しながら協力して一つのものを作り上げる楽しさを感じて遊ぶようになった。また、一つの玩具から様々な使い方を発見し遊びを展開するようになり成長を感じる。私自身が子ども達の遊びに入り、一緒に行うことで子どもの考えや思いを知る機会を得られた。今後もその時間を大切にしていきたい。</li> <li>● レゴブロックで人形ごっこや恐竜を作ったり、積み木でだるま落としをしたりなどたくさんイメージを広げて遊んでいた。子ども達との会話の中でこれやりたいやってみたいという気持ちを大事にし、なるべく実践するように心掛けた。これからも継続していきたい。</li> <li>● 「親子でアート」と称しての親子参観は画期的だったのではないかと、日々の製作活動では一斉保育で見本という形式が多いが、その中でも個性を出している部分もある。さらに個々に秘められた感性が発揮できる時間も作れるよう、職員間で子ども達の興味関心をさらに広げられる環境設定作りについて思いを共有していきたい。</li> </ul>
		3	不思議さを感じるものや身近なものなどで興味を引く環境づくりをする	3	興味を持ったことに、触れたり試したりする中で表現する楽しさを知る		
		2	子どもたちと関わる中で、1人ひとりの内面を理解する	2	友だちと気持ちを出し合いながら遊ぶようになる		
		1	職員間で保育の思いを共有する	1	好きな遊びを見つけて集中して遊ぶようになる		
危機管理体制を整える	子ども達の安全を守る	4	園内外の危険箇所や避難路を可視化し共通理解を図る	4	危険な状況(物)を発見したときは近くの大人に伝えるようになる	3 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度は、防火訓練に加え、不審者訓練や地震訓練も行うことができ、防火訓練も様々なパターンを想定して実施した。その都度、職員間で意見を出し合い、情報の共有もできたと感じる。</li> <li>● 何が危険なのかなどはあまりまだ分からない部分がありますが、喧嘩をしているお友だちや、怪我をしたお友だちがいると声をかけてくれたりするようになった。</li> <li>● 遊びに対してのきまりや約束を子ども達に話し意識付けを行った。約束が守れなかった時もあつたがその都度クラスや全体に伝える時間を設けた。周りに約束を守っていない子がいた時、子ども達自身で考え進んで注意し合う姿が見られた。また危険なもの、場所を見つけたらすぐに保育者に伝えるようになってきた。安全に対する意識が芽生えてきていると感じ嬉しく思う。</li> <li>● 1年を通して地震や不審者などの避難訓練を行い、どこに避難するべきなのか、どうしなければならぬのか子ども達なりに考えるようになった。また、事前に避難経路を確認したり、子どもの安全に対する意識を育むこともできた。今後も継続していきたい。</li> <li>● 年間を通して防災、防犯などの避難訓練は実施し、子ども達は落ち着いて避難することができるようになったが、事前告知をしないことでできるか、また保護者への引き渡し訓練などは今後の課題。</li> </ul>
		3	避難訓練等を行い、子どもの安全に対する意識を育む	3	避難時の約束や行動がわかり、落ち着いて安全な場に避難できるようになる		
		2	園の遊具・用具などの老朽化や破損状態について適切に修繕・管理する	2	安全な過ごし方を知り、怪我が少なくなる		
		1	危機管理マニュアルを折に触れ読み、役割を明確にする	1	活動や遊びのきまりや約束を守る意識を持つようになる		

## 施設関係者評価委員の方々の総評

- 評価項目や評価指標を設定し、共通理解を促す事で職員も向き合い保育に取り組む事ができている。研修も計画的に行われており、先生方の資質向上につながっていると思う。
- 先生方の「学び～input」と「実践～output」の継続的な繰り返し、進化し続ける愛に溢れた愛真幼稚園を創ってゆくのだという事を感じた。
- 「子ども達」を主体とした園の思いや教育を知ることが出来た。特に先生方の子ども達に対する向き合い方は素晴らしいと思った。
- 研修会のレポートからは先生方の人としての在り方を学ぶ事が出来た。園外の様々な方との交流活動がされていることもとても良いと思う。
- 毎年回数を重ねるごとに、より質の高い保育を提供されるようになってきている。先生方が自分の思いを素直に表現できている環境も良いです。愛真幼稚園から今後ますますの豊かな子ども達が世の中へ羽ばたいていくことを楽しみにしている。

## 令和6年度の課題

- ① 子どもたちが喜んで園生活を送る。 ② 遊びを中心とした充実した保育の展開 ③ 家庭と地域の連携

① 子どもたちが喜んで園生活を送る。②遊びを中心とした充実した保育の展開。…令和5年度にこの課題に取り組み、職員には大変良い学びとなった。更に次年度の課題としても保育を深めたいとの意見が一致し、令和6年度も取り組むこととなった。

③家庭と地域の連携…令和6年度は「家庭と地域の連携」をテーマに福岡県教育課程研究発表を行うことになったので、施設関係者評価事業に於いても令和6年度の課題の一つとした。